

# 宍道湖流入・流出水調査月報

(平成13年7月期)

## 水質概要

7月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層26.1、中層26.1、下層25.8)と比較してほぼ平年並の変動であった。図1に示すように、7月の水温変動は25~33で変動しており、下旬に向かうにつれ徐々に水温上昇が見られた。7月22日以降は、上層・中層・下層ともに30を越えていた。水深による顕著な差異は見られなかった。15psu以上の高塩分流入時に中層・下層の水温が2~4程低下していた。7月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層7.6psu、中層11.3psu、下層12.3psu)に比べて、上層、中層、下層ともに低い値での変動であった。また、7月においては15psu以上の高塩分水の流入は8日観測された。7月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係は見られなかった(図2参照)。7月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに2.2~5.1mg/lの変動であった。(平均値:上層3.7、中層:3.8、下層:3.0mg/l)。顕著な貧酸素水の流入は、7月1日、13日、17日に見られた。図1に示すように、15psu以上の高塩分水の流入時に溶存酸素濃度の低下が見られた。

表1 7月期の水質概要

		水温	塩分	溶存酸素濃度
		( )	(PSU)	(mg/l)
上旬	上層	26.7	4.6	5.1
	中層	26.4	6.1	4.7
	下層	26.2	6.1	4.1
中旬	上層	28.5	3.5	3
	中層	28.4	4.6	3.6
	下層	28.1	4.8	2.8
下旬	上層	30.5	4.7	3.2
	中層	30.3	6.4	3
	下層	30.1	6.5	2.2
月間平均 (7月)	上層	28.6	4.3	3.7
	中層	28.4	5.7	3.8
	下層	28.2	5.8	3

(水温・塩分の平年値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年4月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

## 水質

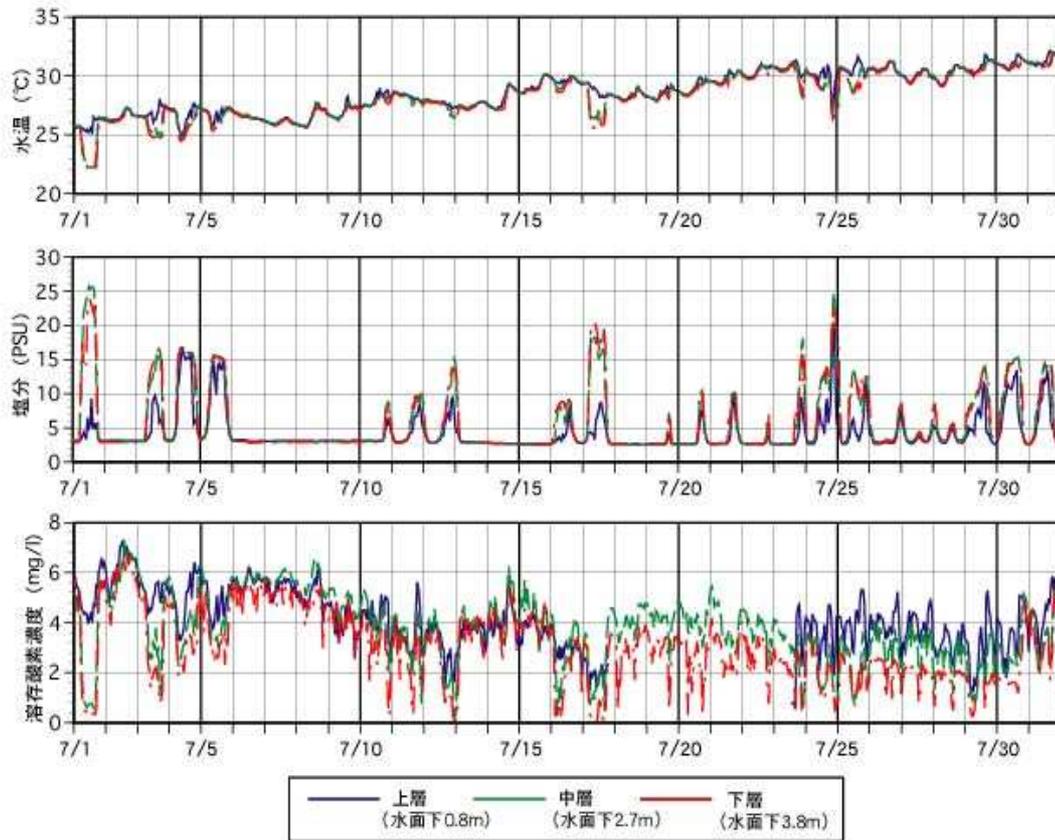


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

## 気象概況

図2に示すように、7月の顕著な気圧変動は、7月6日、12日、16日において急激な低下が見られたが、全体として1000hPa以上の変動であった。平均気圧1005.5hPaは、平年値(平年値1008.0hPa)と比較して若干低かった。表2に示すとおり、7月の日射量は、0.1375MJ/m<sup>2</sup>であり、6月と比較して高い値を示していた(6月平均値:0.1101MJ/m<sup>2</sup>)。7月の風向・風速は、平均風速2.7m/sec(平年値3.2m/sec,西風)であり、平年並であった。

表 2 7月期の気象概要

	気温 ( )	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m2)
上旬	25.3	1007.3	3.2	南西	0.138
中旬	26.2	1005.2	2.2	南南西	0.1101
下旬	28.6	1008.9	2.7	南南西	0.1619
月間平均 (7月)	26.8	1007.2	2.7	南南西	0.1375

( 平年値は、平成 11 年気象の暦 ( 山陰版 ) ( 財 ) 日本気象協会中国センターより引用 )

( 表中の数字は、平均値を示す )

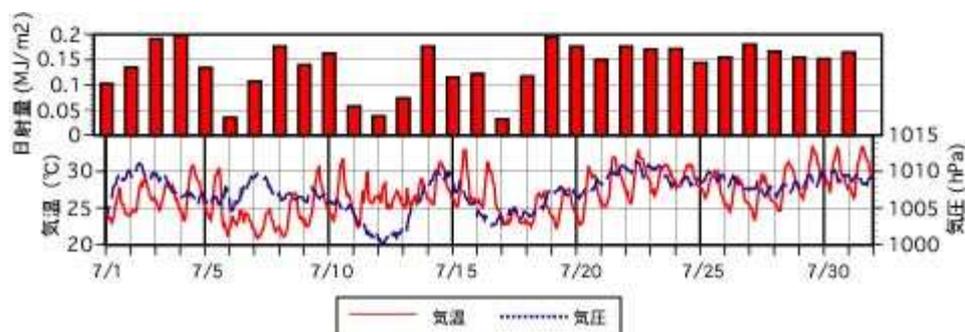


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

### 流況

7月の平均流速は、上層 19.1cm/sec、中層 15.4cm/sec、下層 14.8cm/secであった。7月の東方流速は、中旬までは宍道湖から中海に向かう流れが卓越しており、また、この間の塩水遡上がほとんど見られなかったことから、宍道湖水位が雨量の影響によって高かったものと推察される。下旬においては、潮汐による往復流が卓越していた。

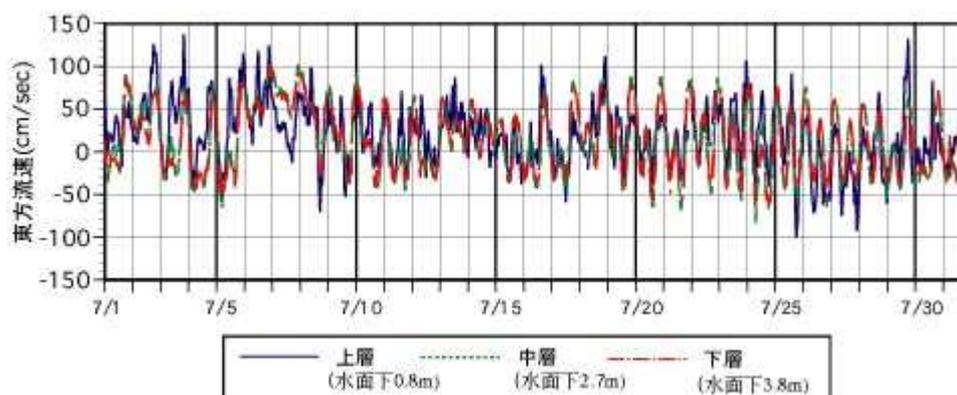


図 3 東方流速の時系列変化